

経営比較分析表（令和2年度決算）

高知県 四万十町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.49	99.68	2,610

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,465	642.28	25.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
894	0.44	2,031.82

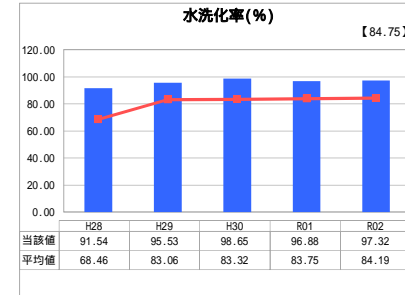
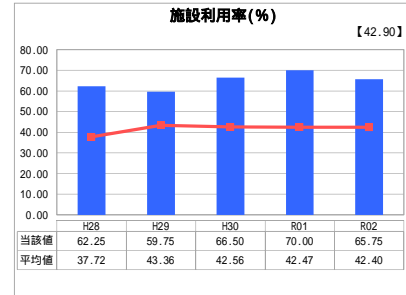
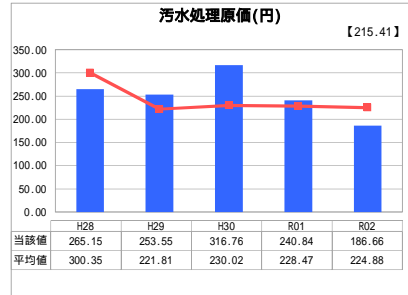
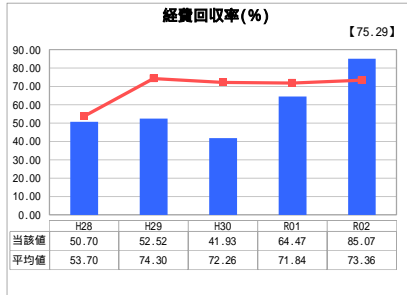
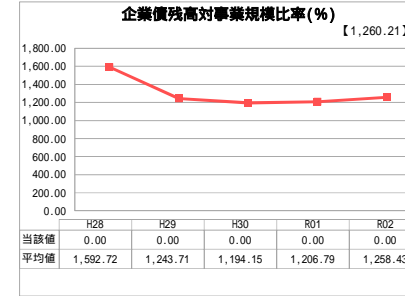
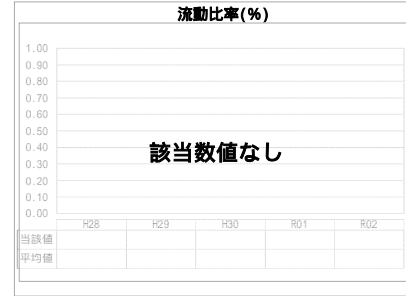
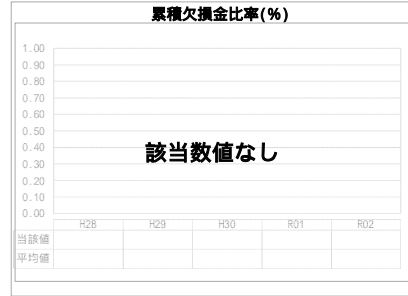
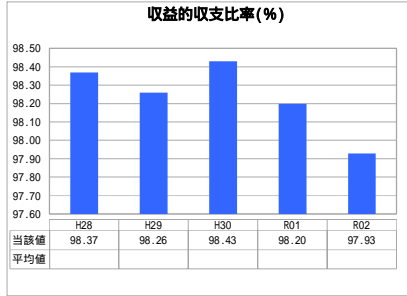
グラフ凡例

■ 当該団体値(当該値)

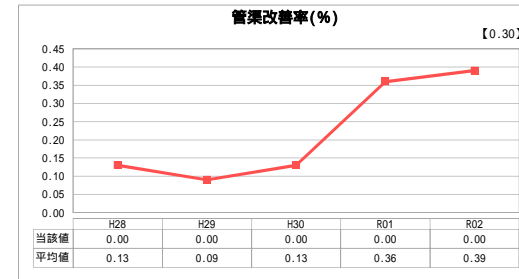
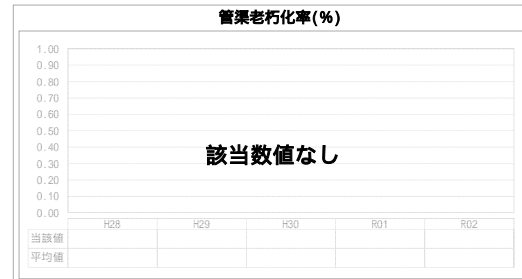
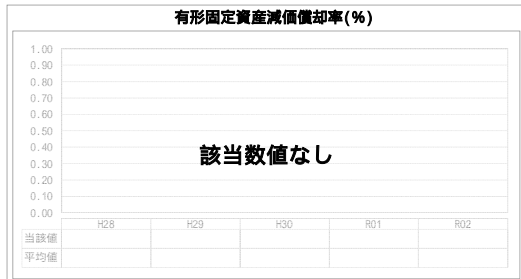
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

大正クリーンセンターの処理場および管路は整備済みであり、現在の主な支出は建設時の起債の償還と機器の修繕費が主となっている。経費回収率はほぼ横ばいの状況となっており、他団体に比べ依然低い水準となっている。収支不足は他会計からの繰入金に依存している。

今後老朽化した機器の更新が必要となるが、使用料収入の増加は見込まれないことから、国庫補助（ストックマネジメント事業）等を活用し調査分析を実施する予定である。調査結果によっては新たな修繕や更新等が発生する可能性があるため修繕費用負担の平準化や修繕等の費用を見込んだ料金改定が必要となる。

施設利用率、水洗化率の効率性は平均値を上回っている状況である。

2. 老朽化の状況について

大正クリーンセンターは平成14年4月より稼働しているが、近年設備の不具合が徐々に発生している。水処理の要となる機器類については、早急に対応する必要があるため、町単独費で交換・修繕を行っている。しかしながら、経年劣化や老朽化が進行しており突発的に機器が作動しなくなる恐れがある。

そのため、できるだけ早くストックマネジメント手法を用いて最適化構想を策定し、計画的に機器の更新・修繕・交換を行っていく予定である。

全体総括

整備が完了していることから、今後も維持管理を適正に行っていく。

また、老朽化した機器等の更新には、国庫補助事業を活用し、町の財政負担を軽減しつつ、より確実な水処理を目指し、町民の生活環境の向上に努めていく。